



## 与えすぎている子育てに、まった !!



世の中が便利になり、欲しいものが簡単に手に入る時代です。そんな時代だからこと、大切にしていきたい子育てのポイントを紹介します。それは、「認める」「見守る」「待つ」です。

私自身、子育てしながら働いていますが、意識せずに日々過ごすことが多く、この事を調べるうちに、自分自身の子育てに反省…意識改革していこうと思ったので、皆さんにもお知らせします。

**「認める」**とは、子どものあるがまま受け入れることを言います。

簡単に実践するには、子どもの様子やその状況を見たまま伝えるだけでもいいそうです。送迎の際に今日の献立紹介をお子さんと見ながら…「今日の給食はこれね。嫌いな人参が入っているけど食べられた？すごいね！」などの声掛けでも、OKです。親との会話で、子どもは「自分のことをきちんと見てくれている。認められている」と感じる事が出来るのです。

**「見守る」**とは、子どもが、致命的な挫折を経験しそうな時以外は、過剰の口出しや手出しをしないことです。それは、ある意味『過干渉をやめる』ことです。

**【過干渉とは…】** 子どもが望んでいないことを親の判断や価値観、理想から、先回りしてやってしまう行為です。ことある毎に、子どもの気持ちを尊重することなく、必要以上に口出しをして、あらゆることをコントロールしようとする事です。

- ※ 子どもが望まず嫌がっていることを、無理やりやらせていませんか？
- ※ 子どもがやりたいことを制限していませんか？
- ※ 子どもの行動を常に監視していませんか？

**「待つ」**とは、子どもを信頼することです。「この子なら出来る」と信じてあげることが大切です。つまり、子どもに「信じて任せる」のです。すると…大人は、自然に待つことが出来るようになります。親に待ってもらった子は、「自分でやりきった」という達成感を味わい、自信となり「次もまたやってみよう」に繋がるのです。

モンテッソーリ教育では、子ども達に何かを伝える時、ゆっくり分析して教える「分析行動」を意識します。それはなぜかと言うと、子ども達にとって、大人の動きは8倍速にも感じてしまうからです。そう思うと、子どもの動きを「8」数えて待つのもいいかもしれません。

日々子育ての中で、ちょっと一息…子どもとの関り方を見直してみませんか？

(橋本)

**最後に【過干渉チェックリスト】** ※いくつチェックがつかまりましたか？

- 子どもが自分で靴を履こうとしているのに、出来ないと決めつけて履かせてしまう。
- “片付けなさい”と叱りながらも、親がおもちゃを片付けてしまう。
- お友達と遊ぼうとする子どもに、ケンカもしてないうちから“仲良く遊びなさい！”とひと言クギをさす。
- 泥遊びをしたがっている子どもに“パズルで遊びなさい”と大人の意向を押し付ける。
- 子どもが着たがっている服や履きたがっている靴を禁止する。
- “みんなの輪のなかに入って遊びたくない”と言っている引っ込み思案な性格の我が子に、お友達と一緒に遊ぶことを強いる。
- 危険だと思うと、なんでもやる前に“危ない！”と阻止する。